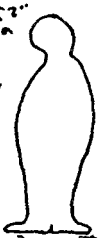
祈りの姿勢



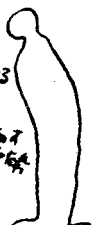
キリストの苦難を
偲ぶ意味を
持っている。

昔から正教会では、立って祈るのが普通。隠遁者達は、仰臥をも立ちっぱなしで祈りを行ったりする。

正教会の祈りの基本姿勢は立つこと。立った姿勢は修道を意味する。

主教、司祭から祝福をいただく時。両手をかさね前に差し出し、祝福のまを受ける姿勢。

十字架をまずかいてから十字架がいただけでも良い日もある。



イコンに接吻する時、ろうそくをあげる時、十字架に接吻する時などの姿勢

軽く上半身をかがめれをする。

祈りの中で、祝福がある時、聖書が読まれる時、祝文が読まれる時に、首をかがめ、上半身をやわらかがめる。"われらの首をまにかがめん"と唱えられる時。神につかえる意志を示す。

十字架をかいてから指をなめにつけるようにする。神に対する最高礼。

御聖体をいただく時、跪で祝福をうける時、天使がヨヨ枝をたたんだ形のと言われる。

ひざをおるのは、神の前にしずむ"おる"ことである。神に許しを願う姿勢であると同時、くいあらためから、身をあらわす。悲しみとへりくだりをあらわす。

神に対する畏れ、恐れ、尊敬を示す。神の前にいることを意味する。御聖体が運び出される時。

正教信仰図解・An Illustrated Orthodox Faith・Jan. Publishing House・1983・Ryo Zaizen Kawakami